

## 1 社会・治安情報

8月に首都サラエボやボスニア・ヘルツェゴビナ各地において、女性への暴力及び殺人（フェミサイド）に対する抗議集会が行われたほか、9月には、ボスニア・ヘルツェゴビナを構成する2つのエンティティであるボスニア・ヘルツェゴビナ連邦とスルプスカ共和国の境界周辺の地域で、ボスニア・ヘルツェゴビナ検察（国家レベル）がスルプスカ共和国大統領を起訴したことに抗議する集会が複数回実施されましたが、いずれも警官隊との衝突などは発生せず終了しました。一方で、こうした集会が行われている場所付近では思わぬ騒動に巻き込まれる危険があるため、報道等で日時や場所等に関する最新の情報の入手に努め、周辺には近づかない等の注意が必要です。

## 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）7月～9月の間、サラエボ市内を中心に、公共施設、小規模スーパーでの強盗ないし強盗未遂事件のほか、発砲、爆発物爆破に関係する逮捕事案がいずれも月あたり数件発生しました。また、違法薬物所持による逮捕事案はそれよりも多く発生しています。

（2）サラエボ市内及びモスタル市内の観光地ではスリやひったくりが多く発生しているため、観光客が多く集まるような場所では特に注意が必要です。

## 3 日本人被害発生状況：当館が把握している情報です。

7月～9月の間、日本人が被害に遭った事件は認知していません。

## 4 テロ・爆弾事件発生状況

（1）最近の傾向として、国内の学校、病院、警察署、裁判所等に対する爆破予告が発生しており、7月にもサラエボ地方裁判所に対して同予告があり、2人が逮捕されました。これまでのところ実際に爆発物が設置された、或いは不審物が爆破したといった情報はありますが、今後、実際に爆発物が置かれたり、爆発したりする可能性があるため、政府や公共の施設、バスターミナル、ショッピングセンター等を利用する際は政府発信の情報や報道に注意してください。

（2）8月、「イラク・レバントのイスラム国（ISIL）」と連絡を取り合い爆発物による宗教施設へのテロを計画していたとして男性が逮捕されるなど、ボスニア・ヘルツェゴビナ国内には今なおこうしたテロや過激思想の支持者或いは共鳴者がいると考えられています。

（3）なお、これまで日本人が被害に遭ったテロ・爆弾事件は認知していません。

## 5 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人が被害に遭った事件は認知していません。

## 6 日本企業の安全に関わる諸問題

特段の問題は報告されていません。